

1. 道路構造検討方針

1-1 環境影響評価項目



本事業の実施にあたって、環境保全を行うために検討していく環境影響評価項目は、第1回環境部会において以下のとおりとなっている。

- ①環境要素は、「自然環境の保全に関わるもの」を対象とする。
- ②行為・要因は、事業者での検討可能な「工事の実施」及び「橋梁の存在」を対象とする。
- ③景観、人と自然のふれあい活動の場、道路照明、風害については対象外とする。

	環境要素の区分	行為・要因			説明
		工事の実施	橋梁の存在	道路の供用	
公害の防止に関わるもの	大気質			環・阿	→工事中は対策工を実施する。また、道路供用はアセスにて「環境保全目標を満足する」と評価されており、対象外。 検討の範囲
	騒音	阿		環・阿	
	振動	阿		阿	
	水質	阿			
自然環境の保全に関わるもの	地形及び底質		阿		→環境影響評価項目として設定。
	日照阻害		阿		
	植物、動物、生態系	阿	環・阿	環・阿	
	景観		環・阿		→アセスによって橋梁整備の景観について「環境保全目標を満足する」と評価されているが、 実施設計ではディテールを検討。
	人と自然とのふれあい活動の場	阿	阿	阿	→堤防道路上約4.5mを通過しウォーキング、散歩等への影響はないため対象外。
	道路照明			阿	→吉野川渡河部上に道路照明の設置予定なし。
	風害		阿		→主塔が必要な場合、対象とする。



環：H6環境影響評価書で予測及び評価を実施した項目
 阿：阿波しらすぎ大橋建設事業の検討項目

■ 1-3 道路構造検討方針(第1回環境部会決定事項)



第1回環境部会による道路構造の検討方針を以下に示す。

1) 工事時の台船による河床の浚渫

工事による環境への影響に関して、**浚渫規模が少なく、また浚渫期間が短い施工**となる橋梁形式を優位とする。

2) 下部工(橋脚)による、流況への影響(橋脚周辺部及び河口干潟の地形変化)

橋脚による流況への影響に関して、**地形変化量の少ない**橋梁形式を優位とする。

3) 上部工が鳥類に与える飛翔状況への影響

上部工が鳥類に与える飛翔状況への影響に関して、**できるだけ主塔、ケーブルのない桁橋**となる橋梁形式を優位とする。

4) その他、橋梁形式検討において配慮すべき事項

- ・ルイスハンミョウの回廊に配慮すること。
- ・工事による浚渫土砂の処理方法に関すること。
- ・地形改変場所は可能であれば環境の価値を踏まえて検討すること。

1-4 橋梁形式と環境影響度のイメージ



第1回環境部会の意見を踏まえた、各種橋梁形式と環境への影響度について整理した。

各種橋梁形式と環境改変への影響度

	形式 (事業費の比率)	略 図	地形改変		鳥類への影響	環境への影響度
			施工時の浚渫	流況		
<div style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;"> ↑ 多い 橋脚数 ↓ 少ない </div>	桁橋 コンクリート	(1.03~1.05) L=80m~125m H=13m 	大 ↑	影響なし	大 ↑	影響大 影響小
	鋼製桁橋	(1.00~1.06) L=125m~250m H=13m 	小	影響なし	大 ↑	影響大 影響小
	ドームストラ エクストラ	(1.34) L=280m H=42m 	小	影響なし	大 ↑	影響大 影響小
	斜張橋	(2.67) L=500m H=122m 	小	影響なし	大 ↓	影響大